

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス わくわくステーション			
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		～	令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもと保護者のニーズを客観的にとらえ、本人の自立に向けた成長を支えていけるような支援の構築、支援計画の作成。	日々の子どもの姿を語り合う振り返りや打ち合わせの時間の確保。 子どもの姿の丁寧な見取りと保護者とのこまめな情報交換の実施。	現在の取り組みの継続と家庭との連携の強化。
2	多様な活動プログラムの充実。	平日の活動プログラムの一元化、一人ひとりの特性に応じた支援、教材作り。また、休日活動、長期休みには毎回異なるプログラムを計画し、子どもたちが楽しんで参加できる内容を実施している。(令和6年度の休日、長期休みの活動は145回実施)	これまでの取り組みの継続、新たな活動プログラム、教材の開発。
3	各事業所の様子を通信として毎月発行。事業所の様子を保護者・関係機関に向けて情報発信している。	事業所ごとに取り組みがわかるよう紙面の工夫をしている。また、興味関心を持ってもらえるようなマンガを載せるなどの工夫も行っている。	これまでの取り組みの継続、今以上に幅広い情報発信の方法を工夫し、広く周知してもらえるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会などの実施による保護者同士の連携、関係づくり。	保護者同士が関わり合うような企画、活動が少ない。また、それらを実施する場所や日程の計画が難しい。	令和6年度はオンラインによる保護者会や報酬改定による説明化などを実施したことは良かったが、実際に顔を合わせて保護者同士の連携や関わりがもてるような機会を作っていくことが必要である。
2	緊急時、災害時における対応について保護者、子どもたちへ周知していくこと。	マニュアル等は職員間で共有されているものの、それらを保護者へ周知したり、子どもたちへ伝えたりする機会は少ない。	実施している避難訓練の様子、緊急時の対応についての案内など、通信やホームページなどで周知していく。
3	利用している子どもたち同士の交流の他に地域の大人や子どもたちと関わる場の充実。	交流を実施できるような団体や地域との連携やパイプ作りが必要。	平日の活動の中にこれらの取り組みを入れることは困難であると考え、休日活動や長期休みの活動に様々な形での交流活動を検討していく。また、交流ができる関係づくりを積極的に行っていきたい。